

公1 農林水産業担い手青年の育成に関する事業 (令和2年度)

①農業青年プロジェクト活動支援事業(単協) 助成実績

【25団体 991,200円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	西海市青年農業者の会	芋ほり体験による食農教育	食育の一貫として、地元保育園児を対象に農業体験(芋ほり体験)を行い、農業理解や地域の食べ物についての理解を深め、「食」と「農」の大切さを伝えた。掘るだけでなく、苗を植えるところから実施できるよう検討を進めたが、今年度は実施できなかった。
2	いさはや4Hクラブ諫早支部	販路確保に向けた取組み	農家等が農産物を出品・販売するオンラインマルシェの「ポケットマルシェ」で4H会員オリジナル農産物セットの販売を目標に活動を行ったところ、当初は1箱の販売に留まったが、掲載する写真の変更および農産物の内容を変更(5箱限定・送料無料)したところ、数日での完売となった。今後は販売内容の検討や特徴のある品目を栽培するなどの工夫を行う。
3	いさはや4Hクラブ飯盛支部	生分解性マルチ使用による馬鈴薯栽培省略化の検証	芽あけ作業の省力化のため、環境負荷の少ない生分解性マルチを使用したところ、作業の省力化はできたもののマルチにかかる費用が高く収支は赤字となった。収量を上げることができれば、生分解性マルチの使用も検討の余地があると思われる。
4	大村市青年農業者会	落花生プロジェクト	今年度は農福連携の取り組みを主体に活動に取り組んだ。福祉事業所での栽培指導を行い、農福連携商品を販売した。今後は農福連携の取り組みを進め、働き手が不足している農業において、農福連携による労働力確保の可能性について模索する。
5	東彼杵町青年農業者連絡協議会	みかん茶振興プロジェクトⅡ	高機能醗酵茶の原料用の青みかんを、青年農業者にて収穫作業等を支援することにより、茶業との経営複合化を検証。R2年度は、町内8aの圃場で収穫・管理作業を実施し、約225kg・121千円の売り上げを得られた。また、高機能醗酵茶に関する研修会を開催し、プロジェクト活動の意義を会員で共有、見識を深めた。
6	長崎県三会4Hクラブ	人脈を開拓！繋がり続けるためのPR	これまで市や民間との婚活事業を連携してきた繋がりや出会いを活用し、PRやさらなる自己研鑽に取り組んだ。PRとしては、ケーブルテレビへの出演、オープンアカデミーで経営感覚に研鑽、インターネットでの個人販売開始、コミュニケーション向上研修会など。
7	島原市安中4Hクラブ	感水紙を用いた施設野菜における農薬散布方法の検討	慣行区(手作業による薬剤散布)は4.2%の確率で葉の裏まで散布されず、中段で葉の裏まで薬剤がかからない場合があるため、ノズルの動かし方に注意が必要であることが示唆された。試験区(スプリングラー散布)でも同様の試験を行い比較を行う。
8	有明町青年農業者連絡協議会	人参等の野菜残渣を活用した堆肥の検討	堆肥作成を6月から開始し、10月～11月には完成した。成分は平均に対して水分が低く、カリウムが高かった。堆肥作成量を増やすとなると、作成場所の確保が必要。切り返しの頻度は2週間に1回のペースだったが、堆肥の表面だけ堆肥化が進み、内部は不十分な可能性があったこと、カリウム成分が高い傾向にあったことから切り返しの頻度を高めるべきであった。
9	吾妻町青年農業者連絡協議会	ブロッコリー栽培における一発肥料の有効性の確認	一発肥料および堆肥+肥料で比較を行ったが、台風およびコロナ禍の影響で活動が制限される中、管理が行き届かず圃場全体で収穫前に病気が入ったため、今後も管理を徹底調査を引き続き行う必要がある。
10	千々石町農業研究会	有機野菜に挑戦	勉強会にて有機栽培に関する知識を深め、土壌分析を実施したことにより圃場の肥料分を把握し肥料設計を行う準備ができた。また圃場の整地を行い作付けに向けての準備ができた。来年度は実際に有機野菜の栽培に取り組み、成果を上げていきたい。
11	小浜町農村青年振興会	ブロッコリーの品種比較による栽培負担の確認	花蕾重：腐敗等なく収穫・計測ができ、ボルトの方が平均的で100g以上高い値となった。 品質：異常花蕾や腐敗等もなく秀品規格が出荷できた。 以上の事より、小浜町での秋どり栽培においては、「ボルト」も十分適している品種であると考えられる。
12	愛の町農友会	続・緑肥作物を導入して収量アップ	収量以外の観点から土壌の変化の確認を試みた。土壌分析の結果、化学成分的には大きな差は確認できなかったが、例年排水が悪い部分にセスパニアを作付けしたところ改善が見られるなど、土壌改良ができていたことが確認できた。
13	国見町青年農業者連絡協議会	ねぎ残さを活用した堆肥作り	ねぎ残さと牛糞を混合(4:2)した堆肥を作ったが、ねぎ残さの水分量が多く発酵が進まなかったため、もみ殻等で水分調整を行ったが水分量は多かった。堆肥が完成して実際に使用。12月に定植した生育過程を引き続き調査中。今後は堆肥化できる場所の確保および堆肥が白ネギ栽培に活用できるかの試験栽培が必要である。
14	瑞穂町青年農業者連絡協議会	プロジェクトM 2ndシーズン	町内の学童クラブと協働し、土壌改良剤となるEM活性液を活用した堆肥作りから、野菜作りの一連の作業を行い、食育活動を行った。学童クラブの子供たちが農業に関心を持ち積極的に取り組んでくれたが、予想した収量が収穫できなかったため、今後は栽培管理を徹底したい。
15	南串山町4Hクラブ	「ながさき黄金」普及への道のり ～Part4～	長崎で新たに開発されたデンブン師の高い良食味の「ながさき黄金」の試験栽培を実施し、地元イベントでの試食会や販売を計画していたが、コロナにより人が集まる交流イベントが中止となったため十分な活動ができなかった。今後はさらなる収量と知名度のアップを目指し活動を継続する。
16	深江町4Hクラブ	深江小学校における食育活動	コロナの影響により、準備や片付けが活動の主なものになり、植え付けや収穫作業を行うことができなかった。次回はコロナ対策を行い、一緒に作業を行う事ができないが検討する。
17	布津町4Hクラブ	ブロッコリーの育苗期間の違いが生育に及ぼす影響	育苗期間の違い(30・40・50日)苗を定植し、その後の生育の違いを調べることで育苗適期の限界を調査した。10日に1回草丈・葉長・葉数を調査したが大きな差はなかった。収穫開始日および収穫終了は50日苗が早かった。30日苗と40日苗は同じくらいの収穫スピードであった。

18	有家町青年農業者連絡協議会	ブロッコリーの2花蕾とり栽培 ～課題解決編～	「おはよう」を使用し、1花蕾目の収穫終了後にわき芽を残し、後日2花蕾目を収穫した。今年は適期定植・収穫ができたため1花蕾目の秀品率・収量ともに良かった(前年度比：181%) 害虫防除が遅くなったため、3～4割程度のロスがあった。今後は1花蕾目の生長点を横んだ後、側芽を太らせてみる。
19	北有馬・西有家農青会	かぼちゃの品種比較試験	台風被害等により十分なかぼちゃの収量を得ることができなかったため、青果用かんしょ(紅はるか)の早出し栽培試験を実施した。経費があまりかからず防除の回数も少なく、早期出荷の単価も高いことから、夏場の補完品目として有望であることがわかった。
20	口之津・南有馬農青会	Potato Project ～栽培編～	馬鈴薯栽培のコストや労力削減するため、肥効調節型肥料による栽培実験を行った。慣行区と比べ収量も高く、いも1個重も大きかった。今後は肥効調節型肥料の活用を地域に勧める。また春作馬鈴薯における側条施肥による減肥を検討する。
21	加津佐町4Hクラブ	ネット販売を活用して加津佐の野菜を売ろう、広げよう、儲けよう！	1社の販売サイトを活用し、ばれいしょを販売。購入者に聞き取りを実施したところ、消費者向けには販売量が多いとの反応があった。また、写真やしやアクトを活用しないと宣伝力が弱く、単価を上げすぎると購入されないため、単価設定の難しさを実感した。今後も販売を継続し販売数の向上を図る。
22	佐世保市青年農業者連絡協議会	みかんで学ぶ小学校での食育活動	摘果の事前学習後、摘果作業の体験をした。10月には収穫体験を行い、収穫したみかんは児童に食べてもらった。アンケートを実施したところ、食育体験活動に満足している児童がほとんどであり、農家や農業に興味を持ってもらうことができた。
23	平戸市青年農業者連絡協議会	2020 食育プロジェクト	生月こども園の園児を対象に食育活動を行い、今後の連携活動の基礎を築くことができた。また、園児に田植えや夏野菜の定植を体験してもらうことで、農業の面白さや難しさを伝えることができた。
24	松浦青年農業者会	緑肥ひまわりによる農地保全と松浦4Hクラブの認知度向上および食育活動	農地保全と観光資源維持を目的として、除草・耕起と併せて緑肥ひまわり栽培を行った。また、上志佐小学校の5・6年生を対象に米粉を使ったピザやチーズ・バター・プリンを作り、子どもたちの食や農業への関心を高めることができた。
25	吉岐市農協青年部	学童農園と農協青年部	青年部園場にて、作物(水稲・さつまいも・野菜等)を作付し、児童に生育から収穫までの農作業体験をさせた。児童は初めての農作業に苦戦しながらも一生懸命に取り組んでいた。収穫祭では教育機関および地域住民と交流を深めることができ、農業や食に対する興味・関心が高まった。

②農業青年プロジェクト活動等支援事業（専門部会） 助成実績

【15団体 963,486円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	琴海青年農業者クラブ 作業受託班	地域農業の活性化を目指し農作業サポート隊波及の体制作り	琴海地域農業維持・農業振興対策のためにビニール張りの支援活動に取り組んだ。予定していた視察研修はコロナ禍の影響より実施できなかったため、次年度は別の形での視察および勉強会を企画したい。
2	牛丸会	IGR剤およびバイト剤によるハエ発生抑制実証試験	バイト剤とIGR剤の両方を定期的に活用することにより、ハエの発生を大幅に抑制することができた。これにより、牛のストレス軽減および肉質向上につながると期待できる。
3	県央青年パーククラブ	生産性向上のための実証試験	ハーブ成分等を含んだ飼料添加物を肥育豚に給与したところ、暑熱時でも順調に出荷することができた。子宮の深部に注入する人口授精を実施したところ、産子数が1～2頭増加した。
4	牛友会	生産性向上のための実証試験	海藻を含む飼料添加物(アルギスタミナ)を給与したところ、発情が強く、かつわかりやすくなった。アルファルファと糖蜜が原料のサイレージ飼料添加物(ファイバースタート)を給与したところ、子牛の下痢が減少し、かつ飼料の食い込みがよくなった。
5	長崎西海地域養豚研究会	リキッド飼料を活用した夏季の繁殖母豚の適切な管理による生産性向上	繁殖母豚に対し、1日2回の給餌のうち1食分を全量配合飼料からリキッド飼料に置き換えた結果、暑熱の影響による採食量の減少を抑えることができ、夏季の発情の回帰、受胎率及び生産子数が改善し、飼料費の低減も図れることから、生産性及び経営の向上が期待できると考えられる。
6	長崎県茶業青年会	全国茶生産青年茶審査技術競技会の練習および競技会出場に向けての技術向上	全国茶生産青年茶審査技術協議会が開催中止となった。今後はR3年度に埼玉県で開催予定である次期競技会への出場に向け、練習や選手の選抜を行い、会員の技術習得によるレベルアップを図る。
7	長崎のぎ茶手揉み振興会	全国手揉み茶技術協議大会出場に向けての技術向上並びに上位入賞	R2年度はコロナ禍において競技大会が中止となった。そのため、次年度以降の大会出場に向けての技術力向上を図るため、ホイロの修繕や必要な資材を購入するなど環境整備を行った。また、日本茶インストラクター協会長崎支部の講習会において、講師を務めるなどの活動を行った。
8	ながさきグリ茶研究会	緑茶消費拡大の検討と消費者への茶PR活動	定例会において、緑茶の生産と消費動向、付加価値を高めた商品開発など説明、議論を行った。また、今年度からは長崎市内でも県北茶のPRイベントを開催したが、長崎市内での認知度は低かった。今後は長崎市内でPRイベントを行うことで県内での認知度を高めるとともに消費拡大を図れると考えられる。
9	味っ子研究会	西海みかんの将来性を見据えた担い手の資質向上	定期的な生産対策講習会を開催、またかんきつ一斉果実分析を行い西海みかん産地の現状をいち早く把握し、栽培管理の先導的役割を担った。カンキツの新技術や土壌分析について研修会を開催することで、産地の次世代を担う生産者として技術や知識の向上に努めた。
10	牛志会	子牛の下痢対策と発育向上	不活化ワクチンを接種し、生まれた子牛の疾病等について調査したところ、子牛の下痢予防と疾病時の症状軽減を実現することができた。今後出荷時まで調査をし、ワクチン接種の有無で子牛価格に及ぼす影響についても検討していきたい。

11	べべんこはーと	発情発見シール「エストロテクト」の活用方法の検証	発情発見シールを使用することで、発情発見率が87.4%と高い結果となった。また、分娩後35日からシールを貼ることにより、初回発情の発見を早期化でき、発情がこない牛は獣医師の診察を受ける目安となった。
12	園芸部会美作野菜花	五島市における夏カボチャの普及性の検討	2月上旬に圃場整備、2月中旬にカボチャ定植、3月以降栽培管理、生育調査を実施。6月に収穫予定のため、結果および考察は次年度報告予定。
13	IFFの会	食農教育を目的とした保育園児との農業体験交流 経営参画に向けた個人プロジェクトの実施	保育園児に甘藷の定植・収穫作業を体験させることで、農作物の生育過程を知ってもらうとともに、農作業の楽しさや大変さを感じてもらい農業についての理解を深めることができた。また、自ら植えた芋を収穫し食する喜びを感じてもらうことで農業に対する関心を高めることができた。
14	舌岐牛研究会	子牛の販売成績向上	ソルガム3品種（メートルソルゴー・短尺ソルゴー・ちびっこソルゴー）の品種比較試験を行った。また、セリ市結果の検討や自給飼料作物の栄養価、代謝プロファイル活用事例等について勉強会を行った。今年度の会員による出荷子牛の平均日齢体重は、1.01kg/日で舌岐地域全体の平均1.07kg/日には及ばなかった。
15	長崎かんきつ担い手ネットワーク	気候変動に対する高品質果実安定栽培技術の実証試験 (新たなシートマルチ資材試験・みかん浮皮軽減等)	長雨等に対応した品質向上対策として、新たなシートマルチ資材の効果を検証した結果、一部、従来品と同等の効果を確認。また、植物成長調整剤により浮皮、クラッキング、着色等の果皮障害の効果を軽減する栽培技術の実証を行った結果、早生、中生で軽減効果が示唆された。

③農業青年プロジェクト活動支援事業（全国大会） 助成実績
【1団体 65,000円】

	申請者名	発表内容	
1	大村市青年農業者会	守れ！故郷の誇り～おおむらゆでビープロジェクト～	九州・沖縄地区青年農業者会議はコロナにより中止となったため、R2年度に限り、全国青年農業者会議へ出場する大村市青年農業者会へ全額助成することとなった。 【発表要旨】 大村名物である「ゆでビー」の原材料である落花生生産量の減少を解決するため、(1)栽培方法の見直しによる生産性の向上、(2)地元直売所と連携した規格外品を活用した加工品の商品化、(3)各種イベントの開催によるPR強化、(4)農福連携による労力軽減等に取り組み、収益性と生産性を向上させることで産地の拡大を図った。 【結果】 地域活動部門において 農林水産大臣賞（全国1位）を受賞

④農業青年プロジェクト活動支援事業（地区連） 助成実績
【7団体 731,314円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎地区青年農業者連絡協議会	土壌改良プロジェクト	前年度活動より施設栽培では養分が集積し、除塩や土壌の物理性改善が必要であったため、栽培から次作までの合間をぬって緑肥を植え土壌改良を行ったところ、過剰だった養分が適切な範囲内になった。また排水対策のため資材を散布したところ、排水面が不良から良になった。
2	県央地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと地域農業への貢献 プロジェクト活動強化による資質の向上ほか	新規就農者激励会(新規就農者：3名)および農産物販売イベントを開催。 全国青年農業者会議では新型コロナウイルス感染症の影響でウェブ開催となったが、大村市青年農業者会が「守れ！故郷の誇り～おおむらゆでビープロジェクト～」という題で、地域活動部門において農林水産大臣賞を受賞した。
3	島原半島地区青年農業者連絡協議会	発表大会等を通した資質向上と仲間づくり促進	地区連活動や農業者との研修会、消費者等交流会を通して会員相互のレベルアップを図るとともに、青年農業者間の連携を深め、組織活動や地域の活性化につなげるためイベント等を開催した。
4	県北地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと連携の強化およびプロジェクト活動等による資質向上	県連夏季研修会および新規会員激励など
5	五島地区青年農業者連絡協議会	会員相互の連携強化のための仲間づくりと消費者及び関係機関との交流を図る ほか	五島市スマート農業研修会への参加および、会員への参考図書の配布など
6	舌岐地区青年農業者連絡協議会	有色大豆を活用したエダマメの栽培試験	クロダマル・秘伝・アカダイズ・キヨミドリの4品種で栽培試験を実施。有色ダイズのエダマメは一般的なエダマメと比べ、食味は良好で鮮やかな色をしてるため加工用大豆としても様々な用途が期待できる。ただし収穫調整は非常に手間がかかるため、機械化など作業の省力化が課題である。
7	対馬地区青年農業者連絡協議会	青年農業者の経営力向上に向けた技術の研鑽	青年農業者の課題である夏場葉物野菜の生産性および品質向上を図るため、新規資材を活用した試験栽培や、省力化を目的とした果菜類の単為結果性品種の試験栽培、農業を低減した野菜を周年供給するため、水耕栽培の試験栽培を実施し、会員同士の経営実態や将来ビジョンを意見交換し、機運醸成を図った。

⑤農業青年プロジェクト活動支援事業（県連） 助成実績
【1団体 92,930円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	クラブ員の意識向上・組織の充実、強化など	夏季研修会（スマート農業・現地視察）および生活研究グループと連携した物販イベントを行った。

⑥青年農業者活動支援事業 助成実績
【1団体 730,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	各県会長会議、次年度開催県研修会、リーダー研修会等の各種研修会へ参加し、自己研鑽を図るとともに、他県青年クラブ会員との連携による運営協力を行う	各県会長会議、リーダー研修会への参加および九州農政局長と語る会へ参加した。各種会議等に参加することで、自己研鑽を図るとともに他県青年クラブ会員と交流することができた。

⑦担い手活動促進事業 助成実績
【11団体 2,033,275円】

	申請者名	事業内容	活動内容の結果
1	長崎西彼農業者連絡協議会	将来の担い手育成・確保を積極的に行い、会員相互の連携協調・情報交換を図る	研修会等を中心に会員間の連携強化を行った。支援活動においては農大生の研修受入れおよび各地域で助言指導を行い、農業後継者の育成・確保に取り組んだ。
2	県央地区農業者協議会	将来の担い手の育成・支援活動の推進、農村における男女共同参画社会の形成を目指す	農業者と新規就農者との研修会を開催し交流を図った。また、各地域で青年農業者協議会の活動支援や農大生の研修受入、技術習得研修生の視察研修およびマンツーマン研修などを通し、農業後継者の確保・育成に取り組んだ。
3	島原半島農業者会	農業後継者の育成指導、農業・農村の男女共同参画を推進し、地域農業の振興発展に寄与する	農業者と青年農業者等の研修・交流会および農大生の受け入れ、島原農業高校後継者激励会など。
4	県北農業者会	地域で活動する青年への支援と後継者の確保、育成に取り組む ほか	グループ員の資質の向上として役員会の開催、農業青年育成として農家等派遣研修受入れを行った。
5	五島地区農業者会	後継者の育成及び男女共同参画推進、会員相互の連携協調、情報交換の強化	五島市スマート農業研修会及び実演会など、研修会等への参加による研鑽に努めた。
6	杵岐農業者協議会	研修受入および新規参入者への助言等、将来の担い手育成を積極的に行う ほか	総会開催および活動打ち合わせなど
7	対馬市農業者会	新しい経営、技術等の率先実行による先進的農業経営の実現と、地域への波及を図る ほか	現地研修会（島内）および農業経営に関する研修会の開催をし、会員のさらなる資質向上と会員同士の振興を深めることができた。対馬地区青年農業者プロジェクト発表会では若手農業者への助言指導を行った。
8	JA長崎県女性組織協議会	「JA女性 地域で輝け 50万パワー」食・農・地域を豊かに、組織・メンバーの活性化	食を守る活動（レシピ考案・「ながさき旬の野菜料理レシピ」の作成についての協議、意見交換など）、および組織・メンバーの活性化（次代のリーダー育成）など。
9	長崎県農協青年部協議会	次世代のリーダー育成、青年部盟友の所得向上、広報活動の強化	次世代のリーダー育成、青年部盟友の所得向上、および広報活動の強化など
10	長崎県農業者連絡協議会	農業の担い手となる農村青少年の育成確保、また地域農業者としての役割を果たすための取組を行う	知事・農林部幹部との意見交換（基礎整備の重要性・全国和牛共進会の対策・後継者不足に対応した労力確保についてなど）を行った。また、九州農政局および全国協議会などの上部団体との意見交換会（書面開催）を行った。
11	長崎県農業高等学校農業後継者育成連絡協議会	農業への興味や農業高校への進学意欲を高めるため、中学生を対象に就農意欲喚起体験入学・説明会を開催する	ドローンやパネル展示物の見学、ブドウの糖度測定、アイスクリームの製造体験など、実験実習体験や施設見学を行った。会場での密集を避ける等の工夫をし、3校で419名の参加があった。

⑧漁業士等実践活動支援事業（定額） 助成実績
【1団体 2,740,000円】

	申請者名	事業内容	活動内容の結果
1	長崎県漁業士連絡協議会	漁業士会が実施する活動等に対する支援（各地区漁業士会が行う実践活動及び視察研修、学習会等に対する支援）	他地区・他県の漁業者及び異業種との交流、漁業技術に関する学習会の開催、所得向上に関する講習会、水産教室の実施（県下59回）及び視察研修を実施した。